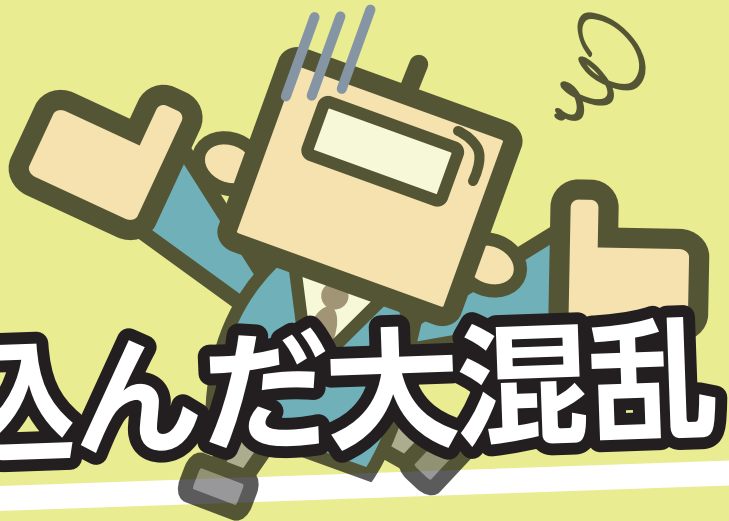


住吉市民病院の廃止

維新政治が持ち込んだ大混乱



！ 現地建て替えの方が安かった！

病院の現地建て替えから廃止に方針を変更した第12回大阪府市統合本部会議(2012年5月29日)での説明がデタラメだったことが昨年の市会で明らかになりました。現地建て替え案よりも安上がりとの説明は嘘だったのです。

廃止・統合案	現地建て替え案	
	120床規模	80床規模
60億円がホンマ! 約30億円	約57億円	約45億円

第12回大阪府市統合本部会議資料「府市病院経営統合について」より

「30億円」とは大阪市だけの負担額で、60億円が事実だったのです(実際は費用が膨れ上がって83億円も掛かる)。

しかも、大阪市の当時の担当者は昨年9月20日までこの事実を知らなかったと驚くべき発言をしています。

！まさに無責任！

福祉的な医療機能について 議論なし！

さらに、住吉市民病院の福祉的な医療機能についての議論はされていなかったことも判明しました。

その結果、重症心身障がい児者のレスパイト入院、生活支援としての短期入所、未受診妊婦や助産制度利用者への対応、子どもの入院や受診に際して社会経済的背景を考慮した柔軟な対応を行ってきた住吉市民病院の医療機能の継承が行き詰っています。

統合後の新病院では継承できないのです。



「二重行政」の言いがかりで、お産ができる病院がなくなる！



- 2011年 5月 大阪市、住吉市民病院の現地建て替えを決定
- 2012年 5月 「二重行政」だと市民病院閉院に方針転換、府立急性期へ機能統合に(第12回府市統合本部)
- 2013年 3月 病院の現地存続求める7万人署名を提出
市会で廃止条例を可決強行
民間病院の早期誘致を求める付帯決議を採択
- 2014年 7月 民間病院辞退、誘致失敗 ←1回目
- 12月 民間病院公募、応募事業者なし ←2回目
- 2015年 8月 市が直接交渉で南港病院に決定・公表
住吉市民病院の閉院を2年間延長決定
- 12月 大阪府医療審議会が再編計画に反対多数の意見書
- 2016年 2月
- 12月 民間病院が日影規制で建設不可だと発覚
※4月に判明するも8か月も事実を隠し、議会でウソの答弁
- 2017年 5月 南港病院が辞退 ←3回目
- 11月 公募が不調に終わる ←4回目

「確実に機能はアップする」
5月29日・第12回府市統合本部

「でたらめな公立病院よりも
しっかり経営してくれば、
いいんじゃない」3月6日・市会

7万人の反対署名
を「ミクロの部分」
3月15日・第19回
府市統合本部



地元医師の反対意見の中、
厚労省が計画に同意
厚生労働大臣、病床再編計画に同意
※地元医師会の反対意見の中、異例の同意

新たな「提案」は、市会での付帯決議や厚労省の同意(100床確保)にも反します！